

# だっこするよ

2026年3月



社会福祉法人茂原高師保育園  
北区立赤羽台保育園  
園長 奥戸 昌子

## ～巣立ちの春に寄せて～

「世界がぜんたい幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」

これは詩人・宮沢賢治が『農民芸術概論綱要』（1926年）の序論に記した言葉です。卒園を迎えるこの季節に、この言葉を胸に置きながら、子どもたちと過ごしてきた日々を振り返っています。

保育園は、毎日を集団の中で過ごす場所です。遊びや生活の中で、子どもたちは自分の思いを伝え、相手の声に耳を傾けながら関係を築いています。年齢も個性も違う仲間と過ごす中で、自己表現する力とともに、違いを受けとめ合う力コミュニケーション力も育まれていきます。日々、気持ちの行き違いや思うようにならないことは、「困ったこと」ではなく、より良い関係をつくるための大切な練習です。どうしたら一緒に遊べるか、どう伝えたら分かり合えるかを考える経験が、「折れない心」つまり心の強さにつながると考えています。失敗しても落ち込むのではなく、どうしたら上手くいくだろうと考えたり、工夫したり、他者に助けを求めたりすること…そうした経験の積み重ねがレジリエンス（逆境から立ち直る力）を子どもたち自身の中に育てていくのです。

その力は、就学や転園など環境が変わっても、子どもたちを支えてくれるでしょう。あなたはあなたらしく、すでに大切な力を身につけている。私たちはそう信じています。ここで重ねてきた「みんなで幸せになる練習」が、これからの未来への歩みを温かく照らしてくれることを願っています。どうか自分を信じてやりたいことを見つけ、さらに深く探究し続けてください。あなたたちだから大丈夫！！

どんだんさん、最後の大きな行事となったチャレンジデーキャンプでは、おうちごとに話し合いを重ね、メニューや食材を決め、買い出しから調理、そして片付け、公園のゴミ拾いまでを仲間と協力してやり遂げました。「みんなでできて嬉しかった」

「がんばったから美味しかった」という言葉の一つひとつに、仲間と積み重ねてきた時間の重みと達成感があふれていました。当日は67名の保護者ボランティアの皆さまにご参加いただき、「子どもの主体性を引き出す…」という手も口も出さずに温かく見守っていただきました。その大人たちの存在が、「自分たちでできた」という確かな自信につながったことに、心より感謝申し上げます。自ら考え、協力し、やり遂げた経験は、これからの人生への歩みの大きな礎となることでしょう。

また、赤羽台西小学校の村松校長先生の講演会では、入学後の生活が子どもたちに無理なくなじむよう、丁寧に配慮されていることを知る機会となりました。早寝・早起き・朝ごはんの習慣、挨拶や返事、自分の名前を言えること、身の回りのことを自分で行おうとする姿勢、困ったときに大人へ伝える力など、求められる基礎は特別なものではなく、保育園での日々の生活の積み重ねそのものであると学びました。園で育ててきた生活力や人との関わり力は、確実に次の生活へとつながっていくものだと感じております。

**未来に巣立つどんだんさんへ** どんだんさんたちは、宮沢賢治の言葉にある「ぜんたい幸福」を異年齢保育の中で体現してくれていました。それは、自分も他者も大切に作る人間の在り方・尊厳のように感じています。あなたたちが、これまで積み重ねてきた日々は、かけがえのない宝物です。卒園式で堂々と自分の夢を語り、花道を歩くその姿に、心からの敬意と大きな拍手を送ります。

そして、一つ**進級するみんなへ** 新しい一歩（進級）はとてもドキドキして緊張しますね。でも大丈夫。これからもあなたがあなたらしく育つ道筋を全力で応援します。どんだんさんのようになれる。

「世界がぜんたい幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」…そもそも子育ても教育も人生も正解はありません。何万通りの可能性に向かって、皆で最善の利益＝最適解を求めながら対話を通して探り合っていく…そのプロセスをこれからも大人チームも愉しんでいきましょう。この一年、子どもたちの育ちを共に喜び、悩み、常に支えて下さった保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

**ご卒園、そしてご進級、誠におめでとうございます。新たな門出に幸あれと、職員一同、心よりお祝い申し上げます。** 写真はチャレンジデーキャンプの様子